



教会短信

2011年12月11日

No. 42

牧師 間渕 善彦

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」(ルカによる福音書2章6～7節)。

今年起こった出来事の中での一番は、何と言っても東日本大震災でしょう。当教会に1ヶ月間避難され、南相馬市に帰宅された方から、ときどきお便りをいただきます。復興までまだまだ長い道のりを必要とします。除染作業がなかなか進まない状況が記されてありました。ボランティアの方たちが今も各地で活躍されておられ、本当に頭が下がります。被災された方々が1日も早くもとのような平穏な生活に戻れるように、わたしたち1人1人ができることを祈り求めてまいります。

原発から20キロ圏内に住んでおられたSさんのことです。工務店を営まれていて、百年は住めそうな丈夫な家を建築され、それが3月10日にやっと完成しました。翌日晴れて新居に入居できると喜んでいました。ところが、東日本大震災が襲ったのです。そして、原発事故が起こり、避難せざるを得なくなってしまいました。結局、完成した新居には一度も住むことができず、避難生活のため家族がばらばらになり、他の人の土地を借りて住まなくてはならなくなってしまいました。新居での家族団欒の夢は消えてしまいました。家があっても放射能で住めない、それも新築したばかりの家に住めないのです。落ち着く居場所がなく、まことに気の毒です。

わたしたちの救い主イエス・キリストがお生まれになったのは、粗末な家畜小屋でした。それは、「宿屋には彼らの泊まる場所(居場所)がなかったからである」。イエス・キリストは神の御子という尊いお方です。豪華な宮殿の立派なベッドでお生まれになるのがふさわしかったはずです。しかし、そうではありませんでした。救い主の誕生はしめやかで、多くの人に知られることがありませんでした。人類の救い主としてお生まれになった方が、なぜそのようにお生まれになったのでしょうか。それは、悲しんでいる人、苦しんでいる人、居場所のない人と共にいるためです。なぜなら、そのような人こそ神の救いを必要としているからです。現代では、大家族の中にも、家があっても、精神的な意味で居場所のない人がたくさんいます。誰もが孤独という問題と向き合います。大震災のような悲惨な体験をされると、神などいないのではないかと、思われるかもしれません。しかし、悲しんでいる人、苦しんでいる人、居場所のない人に寄り添うイエス・キリストが必ずおられることをわたしは信じています。

真の自由とは

いま私が通っている経堂バプテスト教会に出会い、早いもので6年の日々が過ぎようとしている。また現在の職場で働くようになり2年になる。いずれもイエス・キリストの生誕月である12月である。個人的に大変意味があるように思う。

最近職場を通して、自分の信仰について確認することができたと強く思っている。そのことを書かせていただきたい。2年間働いてきた中で、良き出会いや楽しいことも多くあった。最初の1年は、私の能力や適性に近い仕事ができ職場に行くのが本当に楽しみであった。しかし2年目は担当業務が変わり状況が変わった。そしてまったく別の場所で働いている錯覚すら感じるほどであった。また職場の人間関係でも、上役との食い違いや、つらい時に頼っていた職員との関係に行き詰まりを感じはじめていた。

しかしそのような状況が、自らを変えなくては行けないと、私自身が考える機会を与えられた。仕事と私生活をしっかり分けようという考えになってきた。いままでいかに仕事内容、職場の人間の肩書、自分の仕事上の地位に目を奪われ、世間の価値観に必要以上に染まっていたことに気がついた。私はクリスチャンである。しかし、目の前のものだけを追い求めた結果、かえって自由に物事を考える視野を狭めていることに気が付いた。そんなときある聖句に出会った。神は「人が見るように見ないからだ、人はうわべを見るが、主（神）は心を見る。」（サムエル記上16:7）という言葉だ。この言葉は、私自身が今まで行なっていたことと全く反対のことであった。そして今までの自分のあり方を変えようと思うようになった。わかりやすい1つの例としてあげるなら、エアロビクスを始めたことでもある。結果として健康や生活の面では良い影響が出てきたし、笑顔が増えたように思える。さらに職場と私生活の間に線を引きメリハリをつける結果につながり、不十分な点はあるとはいえ職場での仕事や人間関係でもよい方向にすすめることができるようになってきた。少し違った角度でものをみると全く別の喜びや発見があることを体感したのである。

結果として、目の前の物や人に依存するのではなく、イエス・キリストにより頼むことで、本当の自由を与えられた。「キリストを知れば知るほど、その偉大な力を通して、神様に従う正しい生活を送る為に必要なすべての物をいただけるのです」（第二ペテロ 1:3）、ということを実際に体験した。仮に現時点でイエス・キリストから離れていれば、職場のみを世界とする考えから抜け出せず泥沼に陥る結果となっていたであろう。イエス・キリストを通して真の自由を知った。これは、世間の価値観にがんじがらめになるのではなく、世間の価値観から自立し、自由になる事である。結果として信仰は人間を自由にするものだと経験を通して知ることができたのは恵みであった。

クリスマス集会のご案内

★クリスマスイブ、キャンドルサービス

12月24日(土) PM6:30 ~ 7:45

(ろうそくの光の中で、礼拝します)

クリスマスキャロリング

12月24日(土) PM8:00 ~

★クリスマス主日礼拝

12月25日(日) AM10:30 ~ 11:30

(イエス・キリストの降誕を祝い礼拝します)

2012年1月1日(日) 元旦礼拝 AM11:00~12:00

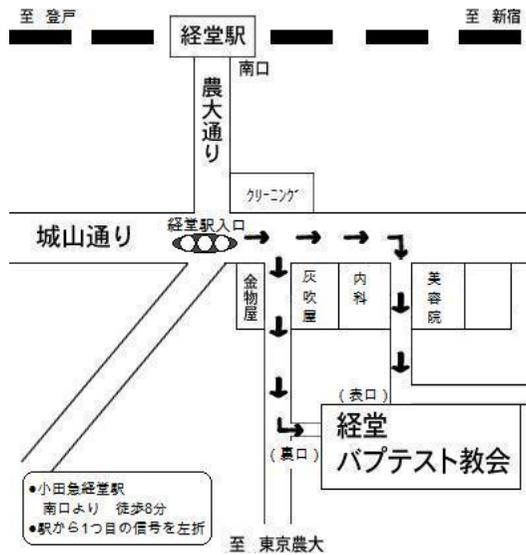
どなたでもご自由にご参加ください。お待ちしております。



💡 クリスマスツリーは、クリスマスになくってはならぬもののように思われています。中世紀までは、ドイツの人々がもみの木に悪魔払いの力があると信じてこの木を拝み、お祭りには飾り付けをし、赤ん坊を犠牲として捧げました。それを宣教師がやめさせ、その代わりにもみの木に幼子イエスへの贈り物を飾ったことが、クリスマスツリーの始まりだといわれています。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～ 11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～ 12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～ 2時30分
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。

エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。